

父親の育児に関する認識と実践について

研究第2部

窪 龍子・青柳 幸子
高野 陽

I 調査目的

従来より母親を対象とした調査研究に比べて、父親に関する調査研究は少ない。これは、父親と育児を結びつけて考えられることが少なかつたため、乳幼児期における父親の役割が重要視されなかつたこと、さらに現実問題として、父親に子どもに関する調査研究に協力を依頼することが難かしいこと、また、M. ミネソタが言っているように、「父親は社会的発明」であつて、それぞれの社会によつて、時代によつて、父親像が異なり、母親像のように、普遍的父親像を描きにくいことなどに原因があると思われる。しかし、まだ充分に明らかにされてはいないもの、子どもの発達に、乳児期から父親は多大な影響を与えていることは確かなことのようにある。

現在、一般的に言われている父親の役割は、まず第一に家庭の経済的基盤を支えることを含めて、子どもを社会の圧力から守ること、第二に現実の社会活動に従事する社会人として、子どもが社会の一員となるのに必要な資質を培うこと、第三に子どもを社会化すること、第三に子どもの学習の男性モデルとなること、男の子には同一視の対象となり、女の子には異性のモデルとなること等の三つである。その前提として家族のリーダーであること、母親を精神的に支援することも要求されている。しかし、風間の調査によれば、現代の父親は、父親としてのあるべき姿を見失つたためか、子どもに密着する母親と同じタイプの親になっているという。また、問題行動を起す最近の子ども達の背後には、母親の問題があり、さらにその後には父親の問題があると言われる。いずれにしても、職前のような家長権を失つてしまつた現代の父親は、権威を保ちにくい状況下におり、理想的父親像も明確ではない。

今回、我々は、幼児を持つ父親がどのような子ども観をもつて育児を行なつているのが、人また子どもにとつて社会的な存在である父親の社会的背景が、子ども観や育児の実践に影響を与えているが否かを知るために、調査

を実施した。

II 調査方法

昭和55年7月、神奈川県下の2保育園、3幼稚園を通して、園児の父親にアンケート用紙(後に示す)を配布し、記入を依頼した。調査項目は、①父母の年齢・学歴・職業、②父親の子ども観(望む子ども像、望む学歴とその理由)③父親の育児の実践(子どもの世話、遊び、しつけ)④父親の自己像及び父親としての自己評価、⑤自分の父親の人格、である。

なお、その父親に複数の子どもがあり、いずれかの子どもに限定して考える必要がある場合には、当該保育園・幼稚園に通っている園児を中心に考えて回答してもらつた。父親の家庭は、82.4%が核家族で、残りが祖父母等と同居する家族構成であつた。

III 結 果

回収率は全体で79.1%であつたが、園ごとの回収率は所在地と共に第1表に示した。回答のあつた父親及び母親の年齢・学歴・職業は第2表のとおりであつた。父親が回答時、中心に考えた子どもの性別による出生順位・年齢を第3表に示した。調査結果は第4～6表に示した。

1. 全体的傾向

第4～6表のうち、全体の結果を回答の多かつた順にまとめると次のようになった。

(1) 子ども観、望む子ども像は、健康で元気のよいこと—84.1%、性格を重視—80.0%(やさしさ—46.8%・

第1表 アンケート協力園の所在地と回収率

		所在地	送付数	回答数	回収率
保育園	A	相模原市	110	76	69.1
	B	相模原市	30	23	76.7
幼稚園	C	相模原市	270	217	80.4
	D	川崎市	93	54	58.1
	E	海老名市	350	305	87.1
計			853	675	79.1

第2表 父母の年齢・学歴・職業

			父 親		母 親	
			人	%	人	%
年 齢	20	代	61	9.0	130	19.3
	30	代	529	78.4	513	76.0
	40	代	82	12.1	24	3.6
	50	代	1	0.1	0	0
	そ の 他		2	0.3	8	1.2
学 歴	中 高	卒 卒	70	10.4	72	10.7
	大 大	専 短 卒 卒	311	46.1	350	51.9
	大 大	専 大 卒 卒	34	5.0	88	13.0
	大 大	専 大 卒 卒	186	27.6	63	9.3
	そ の 他		6	0.9	0	0
職 業	事 務 系	門 理 務	122	18.1	18	2.7
		専 管 事	96	14.2	1	0.1
		販 売 漁 業	93	13.8	27	4.0
	技 能 系	販 売 漁 業	51	7.6	17	2.5
		運 輸 ・ 通 信	6	0.9	2	0.3
		技 能 安 全	42	6.2	0	0
		保 障 サービス	157	23.3	15	2.2
	そ の 他	無 職	28	4.1	0	0
		無 職	31	4.6	14	2.1
		無 職	1	0.1	330	48.9
そ の 他	無 職	48	7.1	20	3.0	
	無 職	0	0	231	34.2	

第3表 子どもの性別による出生順位・年齢

		男 児		女 児		計	
		人	%	人	%	人	%
出 生 順 位	第 1 子	197	61.4	171	55.7	368	58.6
	第 2 子 以 上	123	38.3	134	43.6	257	40.9
	無 回 答	1	0.3	2	0.7	3	0.5
年 齢	2・3 歳	25	7.8	27	8.8	52	8.3
	4 歳	83	25.9	98	31.9	181	28.8
	5 歳	160	49.8	143	46.6	303	48.2
	6・7 歳	48	15.0	33	10.7	81	12.9
	無 回 答	5	1.5	6	2.0	11	1.8
計		321	100.0	307	100.0	628	100.0

明朗—25.2%・素直—8.0%、能力を重視—66.4%（意志の強さ—45.8%・創造力—18.4%・かしこさ—2.2%）、社会性を重視—55.9%（友人と仲よく—29.8%・礼儀正しき—16.8%・信頼される—9.8%）という結果であつた。

た。
望む学歴は、大学まで—48.7%、本人にまかせる—41.6%、高校まで—6.8%、中学まで—0.1%という結果で、進学させたい理由は、教養のため—55.6%（人間性を豊かにする—27.3%、視野を広げる—28.3%）、自立のため—23.6%（自主性を養う—16.6%、才能を伸ばす—7.0%）、実利のため—19.0%（将来の職業のため—10.1%、社会の一員となるため—8.9%）という結果であった。子どもの反抗期の有無については、父母に対してあった—41.0%、なかった—36.3%、母親に対してあった—19.1%、父親に対してあった—2.1%とみており、子どもの相手をするのは、必要なことだ—48.4%、楽しい—38.4%、疲れる—19.7%と思っている。

(2) 育児の実践 つけの方針を決めるのは、父母の話しあい—47.3%、母親—27.4%、父親—15.6%。つけをする時の方法は、言葉で注意する・言いきかせる—62.1%、言葉ではめる—19.1%、言葉で強くしかる—16.1%、体罰—11.4%、何らかの罰—5.0%、ほうびを与える—1.6%という結果であり、反抗に対する父親の対処法は、言葉で注意する—37.4%、言葉で強くしかる—27.7%、体罰—11.2%、見守る—10.7%という結果であった。

子どもの出生時における母子の世話は、祖母などが主にして少し手伝った—33.2%、祖母などと半々にした—16.9%、ほとんど独りでした—9.6%で、世話をしたものをあわせると59.7%であった。乳児期の子どもの世話は、母親を少し手伝った—63.7%、母親と半々にした—11.9%、自分が中心になってした—3.3%で、世話をしたものをあわせると78.9%となった。現在子どもの相手をする時間は、時々する—66.2%、仕事以外の時間は大部分—28.1%という結果であった。子どもの相手をする時に加わる人は、家族だけというのが98.3%で、その内訳は、他の家族—56.1%、父子のみ—42.2%であつて、他家の子どもが加わるのは4.9%であった。

次に、子どものことは母親まかせにしているとか、何もしていないと答えた父親の割合をまとめた。すなわち、子どもの出生時における母子の世話をしながらだ—17.8%、そばにいないでできなかった—20.1%、乳児期の世話をほとんどしなかった20.4%、現在子どもの相手をめったにしない—5.0%、つけの方針を母親にまかせている—27.4%、つけの実施を母親にまかせている—6.2%、反抗への対処を母親にまかせている—11.9%。

(3) 自分の父親の人柄 父親の自己像及び自己評価 自分の父親は、厳しかった—32.3%、優しくかった—19.1%、特に印象なし—18.1%、放っておかれた—10.5%、

頼もしかった—9.9%、こわくて近づけなかった—8.0%、自分(回答者)に期待をかけていた—4.9%、ゆかいな人であった—2.8%、子どもの言うなりになった—0.7%、過保護であった—0.4%という結果であった。

父親としての自己像は、優しく信頼できる—39.9%、厳しい—25.0%、明るく楽しい—19.1%、何でもわがままがきく—7.4%、口やかましい—7.1%、よき指導者—5.6%、冷い—1.5%、単なる同居者—1.5%、頼りない—0.6%、暗い気分させる—0.1%という結果であった。

父親としての自己評価は、充分とは言えないがよくやっている—62.4%、充分よくやっている—4.0%で、「よし」と評価した者は66.4%、不十分であったと思った者は8.6%であった。子どものことは母親にまかせてある—14.7%、わからない—4.3%、子どもは放っておけばよい—3.4%と、評価を回避した者は22.4%であった。

2. 父親の社会的背景による有意差

集計結果に対し、 χ^2 検定を行なったところ、いくつかの有意差が認められた。第4～6表中、ゴチック体で記した数字は、有意差($P < 0.025 \sim 0.005$)の認められたものである。

[1] 父親の年齢による有意差

(1) 子ども観 第4表に示したように、子ども観について有意差のあった項目は、望む子ども像($P < 0.025$)、反抗期の有無($P < 0.005$)、子どもの相手をする時の気持($P < 0.025$)であった。望む子ども像について、20代の父親は、やさしさ(60.7%)、明朗(39.3%)を、30代の父親は、意志の強さ(48.2%)やさしさ(46.9%)を、40代の父親は、意志の強さ(46.3%)、礼儀正しさ(20.7%)を、それぞれが他の年齢より多く望んでいた。反抗期の有無について、20代の父親は、父母に対してであった(44.3%)と答えた者が多く、なかった(27.9%)は少なかった。それに対して、40代の父親は、なかった(46.3%)と答えた者が多く、父母に対してであった(29.3%)は少なかった。30代の父親は全体の平均値に近い回答であった。子どもの相手をする時、20代の父親は、必要なことだ(59.0%)と考える者が多く、楽しい(27.9%)と思う者は少なかった。40代の父親は、楽しい(46.3%)と思う者が多く、必要なことだ(39.0%)と考える者は少なかった。30代の父親は両者の中間の回答で、全体の平均値に近い割合であった。

(2) 育児の実践 第5表に示したように、育児の実践について有意差のあった項目は、しつけの方法($P < 0.025$)、反抗への対処法($P < 0.01$)であった。20代の父親は、言葉でほめたり(26.2%)、体罰を与える(14.8

%)ことが多く、40代の父親はそれに比して少い(ほめる—15.9%、体罰—4.9%)。反抗への対処法については、20代の父親は、母親にまかせる(25.0%)ことや、体罰を与える(18.2%)ことが多く、言葉で強くしかる(11.4%)ことは少ない。一方、40代の父親は、言葉で強くしかる(36.4%)ことが多く、体罰を与える(2.3%)ことは少ない。30代の父親はいずれの場合も両者の中間の回答で、全体の平均値に近い割合であった。

[2] 父親の学歴による有意差

(1) 子ども観 第4表に示したように、子ども観について有意差のみられた項目は、望む子ども像($P < 0.01$)、望む学歴($P < 0.01$)、進学させたい理由($P < 0.01$)であった。望む子ども像については、創造力と素直さに有意差が認められた。大学卒の父親は、創造力(14.4%)を望む者が多く、素直さ(6.2%)は少なかったが、中学卒の父親は、創造力(5.7%)より素直さ(10.0%)を望んでいた。高校卒の父親は両者の中間の割合で、全体の平均値に近い回答であった。第2表に示したように大学卒の父親は33.5%であったが、そのうち57.5%の者が子どもに大学までの進学を望み、高校までは1.3%、40.3%の者が本人にまかせると回答した。高校卒の父親は46.1%で、子どもは大学まで—48.2%、高校まで—8.0%、中学まで—0.3%、本人にまかせる—40.5%という結果であった。中学卒の父親は10.4%で、子どもは大学まで—32.9%、高校まで—15.7%、本人にまかせる—48.6%という結果であった。進ませたい理由について、大学卒の父親は、人間性を豊かにする、視野を広げるという教養(63.7%)のためと答えた者が多く、将来の職業ため、社会の一員となるためという実利的理由(11.9%)による者は少なかった。高校卒の父親は、教養(63.7%)のためが多かったが、中学卒の父親は、教養(37.1%)のためや、自主性を養う、本能を伸ばすという自立(18.6%)のためと答えた者は少なく、実利的理由(28.6%)による者が、他の場合より多かった。

(2) 育児の実践 第5表に示したように、育児の実践について有意差のあった項目は、出生時における母子の世話($P < 0.005$)であった。大学卒の父親は、祖母などが主で少し手伝った(36.7%)、そばにいないくて何もできなかった(22.6%)者が多く、ほとんど独りでした(4.0%)者は少なかった。中学卒の父親は、ほとんど独りでした(20.0%)者が多く、祖母などが主で少し手伝った(22.9%)、そばにいないくて何もできなかった(18.6%)者は他の場合より少なかった。高校卒の父親は、両者の中間の回答で、全体の平均値に近い割合であった。

(3) 自分の父親の人柄・父親の自己像 第6表に示し

たように自分の父親の人柄($P < 0.01$)及び父親の自己像($P < 0.01$)について有意差がみられた。大学卒の父親は、自分の父親を、厳しかった(33.6%)、優しくかった(18.1%)、頼もしかった(11.9%)、自分に期待をかけていた(7.1%)とみており、中学卒の父親は、放っておかれた(24.3%)、こわくて近づけなかった(14.3%)と答えた者が多く、厳しかった(21.4%)、優しくかった(11.4%)、頼もしかった(4.3%)、自分に期待をかけていた(1.4%)と答えた者は、他の場合より少なかった。大学卒の父親は自分自身を、優しく信頼できる(44.2%)、よき指導者(7.5%)とみている者が多く、明るく楽しい(10.2%)、何でもわがままがきく(6.2%)、口やかましい(5.3%)とみている者は少なかった。中学卒の父親は、明るく楽しい(27.1%)、何でもわがままがきく(14.3%)、口やかましい(12.9%)とみている者が多く、優しく信頼できる(28.6%)、よき指導者(2.9%)とみている者が他の場合より少なかった。いずれの項目についても、高校卒の父親は両者の中間の回答で、全体の平均値に近い割合であった。

〔3〕父親の職業による有意差

父親の職業については、第2表に示したように、事務系(専門職、管理職、事務職)と技能系(販売職、農・漁業、運輸・通信職、技能職、保安職、サービス職)の三つにまとめて検討した。

(1) 子ども観 第4表に示したように、子ども観について有意差のあった項目は、望む子ども像($P < 0.01$)、望む学歴($P < 0.005$)、進学させたい理由($P < 0.005$)、子どもの相手をする時の気持($P < 0.025$)であった。望む子ども像のうち創造力について、事務系の父親(24.1%)の方が、技能系の父親(12.1%)よりも多く望んでいた。事務系の父親は、子どもの進学について、大学まで(59.8%)、高校まで(1.9%)、中学まで(0.3%)、本人にまかせる(36.0%)と回答したのに対し、技能系の父親は、大学まで(37.5%)、高校まで(11.4%)、本人にまかせる(49.8%)という回答であった。進学させたい理由について、事務系の父親は、教養のうち人間性を豊かにする(35.0%)という理由を重んじ、技能系の父親は、視野を広げる(32.4%)という理由を重んじていた。その他、実利的理由、自立のためは、技能系の父親の方が重んじていた。子どもの相手をする時、事務系の父親は、楽しい(45.0%)と思う者が、技能系の場合(33.3%)より多く、疲れる(16.4%)と答えた者が、技能系の場合(22.2%)より少なかった。

(2) 育児の実践 第5表に示したように、育児の意識については、しつけの方法($P < 0.005$)、出生時における

母子の世話($P < 0.005$)、子どもの相手をする時ほかに加わる人($P < 0.01$)の3項目に有意差がみられた。まず、しつけの方法のうち、言葉でほめることが、事務系の父親(23.2%)に多く、技能系の父親(13.7%)に少なかった。次に、出生時における母子の世話についてみると、祖母などが主で少し手伝ったと答えた者は、事務系の父親(39.5%)の方が技能系の父親(28.3%)より多かったが、ほとんど独りでしたと答えた者は、技能系の父親(14.5%)の方が、事務系の父親(4.8%)より多かった。子どもの相手をする時については、父子だけと答えた者が事務系の父親(45.7%)の方が技能系の父親(37.1%)より多く、他家の子どもが加わるのは、事務系の父親(2.6%)より、技能系の父親(7.0%)の方が多かった。

(3) 父親の自己像と自己評価 第6表に示したように、父親の自己像($P < 0.01$)と自己評価($P < 0.005$)に有意差がみられた。父親の自己像のうち、優しく信頼できると答えた者が、事務系の父親(47.6%)に、技能系の父親(34.3%)より多かった。父親としての自己評価については、事務系の父親は、充分よくやっている(5.1%)、不充分であった(11.3%)が共に技能系の父親(充分—2.9%、不充分—4.8%)より多かった。

〔3〕子どもの持つ条件による有意差

〔1〕出生順位による有意差

(1) 子ども観 第4表に示したように、出生順位によって有意差のあった項目は、反抗期の有無($P < 0.01$)についてであった。第1子は父母に対する反抗(47.0%)、母親に対する反抗(20.4%)が第2子以上より多く、第2子以上は、反抗はなかった(45.1%)、父親に対する反抗(3.9%)が第1子より多かった。

(2) 育児の実践 第5表に示したように、育児の実践について有意差のあった項目は、出生時における母子の世話($P < 0.005$)、乳児期の世話($P < 0.005$)、子どもの相手をする時ほかに加わる人($P < 0.01$)であった。出生時における母子の世話は、ほとんど独りでしたという父親は、子どもが第2子以上(12.1%)の場合に第1子(6.8%)より多かったが、そばにいて何もできなかった父親は、第2子以上(16.7%)より第1子(22.8%)の場合の方が多かった。子どもの相手をする時第1子の場合には、父子だけ(49.7%)や他家の子ども(6.3%)が第2子以上より多く、第2子以上の場合にはほかの家族(59.1%)が加わるのが第1子(49.7%)より多かった。

〔2〕子どもの性別による有意差

(1) 子ども観 第4表に示したように、子ども観につ

いて有意差のあった項目は、望む子ども像 ($P < 0.01$)、進学させたい理由 ($P < 0.005$) であった。望む子ども像のうち、女兒より男児に多く望むことは能力の意志の強さ (男児—56.9%、女兒—34.1%)、創造力 (男児—21.9%、女兒—14.8%)、かしこさ (男児—2.8%、女兒—1.3%) であり、男児より女兒に多く望むことは、性格のうち、やさしさ (女兒—53.8%、男児—40.9%)、素直さ (女兒—10.5%、男児—5.0%) であった。進学させたい理由について、実利的理由である将来の職業のためが女兒 (7.5%) より男児 (11.9%) に多く、社会の一員となるためが男児 (5.6%) より女兒 (12.1%) に多かった。自立のうち才能を伸ばすことをあげているのは女兒 (4.9%) より男児 (9.7%) に多かった。

(2) 育児の実践 第5表に示したように、育児の実践について有意差の認められた項目は、しつけの方法 ($P < 0.025$) であった。体罰を与えるものは女兒 (7.5%) より男児 (15.0%) に多く、母親にまかせるものは男児 (5.0%) より女兒 (7.2%) に多かった。

4. 母親の職業の有無による有意差

(1) 子ども観 第4表に示したように、子ども観について有意差のあった項目は、望む学歴 ($P < 0.025$)、進学させたい理由 ($P < 0.005$) であった。母親が無職の場合、父親は子どもに高学歴を望んでいた (大学までは無職—54.2%、有職—41.2%) ものが多い。進学させたい理由は、教養の人間性を豊かにするが有職の場合 (19.3%) より無職の場合 (30.6%) の方に多かった。

(2) 育児の実践 第5表に示したように、育児の実践で有意差のあった項目は、乳児期の世話 ($P < 0.025$) であった。母親を少し手伝ったは、母親が無職の場合 (67.9%) の方が有職の場合 (56.1%) より多く、母親と半々にしたは、有職の場合 (17.5%) の方が無職の場合 (10.0%) より多かった。

(3) 父親の自己像及び自己評価 第6表に示したように、母親の職業の有無によって、父親の自己像 ($P < 0.025$)、自己評価 ($P < 0.01$) に有意差がみられた。父親の自己像について、優しく信頼できると答えた者は、母親が無職の場合 (44.2%) の方が有職の場合 (28.1%) より多く、厳しい答えた者は、有職の場合 (35.1%) の方が無職の場合 (21.8%) より多かった。よき指導者、口やかましいと答えた者も、有職の場合の方が多かった。

IV 考 察

父親の望む子ども像は、第一に性格 (やさしさ、明朗さなど)、次に能力 (意志の強さ、創造力など) 最後に社会性 (友人と仲よく、礼儀正しさなど) であったこ

と、また子どもの相手をする時他家の子どもが加わるのは、わずか4.9%という結果から考えると、父親の役割のうち、「子どもを社会化する」ことについて、父親はあまり重要に考えていないように思える。育児の実践については、母親まかせにしている父親もいたが、8割前後の父親は何らかの形で育児に参加してたと言える。しかし、しつけの方針を決めることを母親にまかせている父親が27.4%あり、これは一家のリーダーとしての役割を放棄している傾向を伺わせる。父親が一家のリーダーとして存在するためには、戦前の父親が持っていたような権威が必要であると言われるが、その戦前の父親の権威について、中根りは次のように述べている。「日本社会では、家長としての父親に権威があった。正確には家長権が、俗に父権と呼ばれていた。また家長権は格が高く、財産にも恵まれた家々において行使された時、理想的な父親像を生み出したが、条件の整わない家々では、家長権はあらても権威に実質が伴っていないなったり、一方的な押しつけや、他の家族の自由を犠牲性によって保たれたこともあった。さらに父親は家族の個人人に対する親愛の情の表現が貧乏がらうたため、他の家族は父親を敬遠し、親愛関係は相対的に母子間に求められるようになって、実権を母親が握るといふ例も多かった。一般に権威が形成されるためには権威者と権威に服する者の間に一定の距離が必要であり、権威に服する者の人数が多いほど、その権威は高くなる」。

この点について、調査対象者が自分の父親の人柄及び自己像として回答したことから考えてみると、戦前の父親が権威を持っていたらと推測できるのは約5割であり、約3割の父親は子どもにとって影のうすい存在で、2割の父親が優しい存在であった。一方、現在の父親で権威を持っていると推測できるのは約3割で、6割の父親は子どもにとって親しみのもてる父親であった。この傾向は、他の調査でも同様の結果が報告されている。前述の風間¹⁰⁾の報告では、小学生の頃の父親のイメージとして調査がなされているが、がんこだが頼もしい、子どもと遊ばない、話しあう機会は少ないなどいずれの場合も自分の父親の方が自分より多い回答であった。約10年前に報告された詫摩¹¹⁾による調査でも、子どもに厳しいのは自分の父親の方であるが、やさしさや理解、子どもと遊ぶ、勉強をみてやるの項目については、自分の方が圧倒的に多いということであった。結局、戦前の父親は社会制度に支えられて権威を保つことができたが、全員が構成を持っていたわけではなく、現在の父親は、家長制度を失い、核家族で子ども数も少なく、権威を保ちにくい状況におかれているが、父

親自らも子どもと親しい関係を持つことを望んでいるようである。このことは、風間⁹⁾の報告で「父親と子どもの間も、母親と同様に密着型になっている」と考察していることと一致する。

中根¹⁰⁾は、「父親の存在なしには社会は組織されないし、家庭内において父親にナンバーワンの地位を与えることが人類の原型である。」と述べているが、今後、父親の権威について、父親はどのように認識しているのか、さらに明らかにする必要がある。

父親の社会的背景によって、父親の育児に関する認識と実践に差が生じるということがわかったが、それは育児の実践面におけるよりも、主に子ども親においてであった。このことは、育児における量ではなく、質的な面で、子どもに与える影響が大きいと言えよう。20代の父親と40代の父親を比較してみると、20代の父親は子どもの性格を重視し、反抗期ありとみて、しつけの実践では、子どもの相手は必要なことと考え、ほめたり、体罰を与えたり、第7表に示したように遊びをリードして、熱心に子どもを取組んでいる反面、母親まかせにしている者も多かった。これに対し、40代の父親は、子どもに礼儀を重んじていることに特徴があり、子どもの相手を楽しみながら、言葉によってしつけ、20代の父親より、育児に余裕が感じられた。

第7表 家族で遊ぶ時リードする者

	20代		30代		40代		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
父親	13	43.3	98	33.3	20	30.0	131	34.7
母親	8	26.7	58	19.7	11	20.4	77	20.4
子ども	8	26.7	130	44.2	21	38.9	159	42.1
その他	1	3.3	8	2.7	2	3.7	11	2.9

父親の学歴について考えてみると、どの学歴の父親も子どもの進学は大学までと望んでいるわけではなく、自分の学歴の一ランク上の学歴を望んでいることがわかった。中学卒の父親と大学卒の父親を比較してみると、進学を望む理由、子どもの世話などの結果から、中学卒の父親は、「生活の場面で子どもに接することの多い具体的な存在」大学卒の父親は、「子どもに接することの少ない抽象的は存在」ということができよう。学歴によってはっきりと差があったのは第6表に示したように、自分の父親の人格の見方である。この差が何故生じたのか、今回の調査結果からだけでは判断できないが、父親のあり方が子どもの将来に影響を及ぼすことを示唆しており興味深い。

父親の職業によっても結果に差がみられた。事務系の父親は、家族だけで子どもの相手を楽しんでいるが、父親として不十分であったと思い、技能系の父親は他家の子どもを加えて遊び、子どもの世話もよくして楽しんでいるが、疲れると答えた者も多かったところに特徴があった。第8表に示したように、事務系の父親と大学卒の父親と技能系の父親と中学卒の父親は、お互いにオーバーラップしており、職業と学歴を、それぞれ独立した因子として考え難い面があった。

第8表 父親の職業と学歴の関係

	中卒		高卒		大卒		計
	人	%	人	%	人	%	
事務系	11	16.2	116	40.0	163	78.7	290
技能系	57	83.8	171	59.6	44	21.3	272
計	68	100.0	287	100.0	207	100.0	562

今回の調査結果のうち、子どもの性別による違いがあまりみられなかったのは意外であった。望む子ども像について、男児には能力、女児には性格を重んじる傾向があったが、絶対量から言えば、健康で元気のよいこと、やさしいこと、意志が強いことに集約されるのである。これは、前述の託摩¹¹⁾の調査でも同様に、男女差はあまり見られなかった。すなわち、望む子ども像は、「活発で、積極的であること、誠実で社交性、自主性に富んでいること」となっており、女性にはそれには多少おとなしさを望んでいるという程度であった。しかし、望む学歴については、男女差がなかったものの、第9表に示したように、大学の内訳をみても、女児には短大までを望む父親が多く、明らかに差があるのである。このことは、現在の子どもの像については差はないものの、将来の進む道について、父親は男女差をつけた考え方をしているということができよう。

第9表 望む学歴(男女別)

	男児		女児		計	
	人	%	人	%	人	%
中学校まで	1	0.3	0	0	1	0.2
高等学校まで	15	4.7	28	9.2	43	6.9
短大、高専まで	4	1.3	62	20.3	66	10.6
大学まで	119	37.2	76	24.9	195	31.2
大学院以上	33	10.3	10	3.3	43	6.9
本人まかせ	148	46.3	129	42.3	277	44.3

出生順位によって差のあった項目は、子どもの数が増えるという物理的変化によって、結果に差が生じるであ

ろうと考えられる項目ばかりで、父親の子ども観や育児の実践に、根本的な違いもたらず要因となっていないと思われた。

母親の職業の有無によって、結果に差が生じるであろうと予測される項目は、育児の実践面においてである。しかし今日の調査の結果、実践面で差があったのは、乳児期の世話だけで、母親が有職の場合、父親は乳児の世話をよくしているにもかかわらず、自己評価は不十分であると答えた者が多かった。母親の職業の有無によって、望む学歴、進学させたい理由、父親の自己像に、何故差が生じたのか不明である。母親の職業の有無は、父親の社会的背景と深く結びついていることが予想されるが、今後は、母親の職業の内容や時間、家庭内における位置づけなども考えあわせなければならないであろう。

以上、みてきたように、父親の育児に関する認識や実践に影響を及ぼすと考えられる因子、子どもの性別や出生順位、母親の職業の有無といった条件よりも、父親の年齢、学歴、職業など、父親の社会的背景による条件であることがわかった。

今後、前述の父親の権威と共に、父親の役割に対する父親の認識と実践についても調査を継続したい。

V 要 約

父親のあるべき姿、現実の父親像についての調査研究は、母親のそれに比べてまだ充分ではなく、明らかにされていない点が多い。

神奈川県下の2保育園、3幼稚園の協力を得て、アンケート形式により、幼児のいる父親の子ども観、育児参加の状況、それらに影響している要因について調査した。回収率は79.1%、675名の父親から回答を得た。

最多の回答によると、「望む子ども像は、健康で元気がよく、やさしく、意志が強いこと。進学は教養を高めるため、大学までか本人まかせ。子どもの反抗は父母に対してあった。子どもの相手は必要なことである。しつけの方針は父母の話しあいによる。しつけの方法は言葉で注意する。反抗に対しても言葉でしかる。子ども生まれた時の母子の世話はあまりせず、乳児期の世話は少し手伝う程度。現在子どもの相手は時々する。父親として、よくやっているという自己評価。父親自身は優しく信頼できる存在であるが自分の父親は厳しかった」という結果であった。

現代の父親は、戦前の父親に比べると、子どもに対して親しみのある存在として、子どもに接近しており、権威をもって、子どもに「距離」をおいている父親は少なくなっているようであった。また、子どもには、社会性よりも、性格、能力を重んじる傾向がみられた。

調査結果を、子ども側の条件(性別、出生順位)と父親の社会的背景とによって比較検討したところ、後者による差の方が多くの項目にみられた。父親の年齢別では、望む子ども像、反抗期の有無、子どもの相手をする時の気持ち、しつけの方法、反抗への対処法の5項目に差があった。父親の学歴別では、望む子ども像、進学、子どもが生まれた時の母子の世話、父親自身の自己像、自分の父親の人柄の5項目に差があった。父親の職業別では、望む子ども像、進学、子どもの相手をする時の気持ち、しつけの方法、子どもが生まれた時の母子の世話、子どもの相手をする時ほかに加わるもの、父親としての自己評価の7項目に差があった。

以上の結果、父親が子どもに働きかけるとき、子ども側の条件よりも、父親の社会的背景の方が、子どもに与える影響は大きいということがわかった。

最後に、この調査に御協力いただいた、和泉保育園、二本松保育園、相模白ゆり幼稚園、めぐみ幼稚園、海老名みなみ幼稚園の関係各位に深く感謝致します。

文 献

- 1) M. ミード(田中寿美子他訳)「男性と女性—移りゆく世界における両性の研究」東京創元社、1961
- 2) M. E. ラム編著(久米稔他訳)「父親の役割—乳幼児発達とのかかわり」家政教育社、1981
- 3) 桂広介他編「父親の役割」金子書房、1981
- 4) 平井信義他編著「父親の事典」ぎょうせい、1977
- 5) 風間大治『親子関係と家族教育の現代的状況(1)』NHK総合放送文化研究所「文研月報」Vol. 27, No. 2 p. 24~35, 1977
- 6) 伊藤友宜「親—母親、そして父親に問われるもの」朱鷺書房、1978
- 7) 中根千枝『父親の基礎と役割』NHK「70年代われらの世界」プロジェクト編「ギャジ—父なき社会の家族」ダイヤモンド社、1974
- 8) 詫摩武俊「父と子のあいだ」雷鳥社、1969

父親と子どもについてのアンケート

これは、お父さんと子どもが、日頃どのように接しているかを知るためのものです。あなたのお父さんのようにお父様にお知らせ下さい。なお、小学校へ入る前のお父さんを対象にして下さい。

昭和 年 月 日記入

(1) あなたのお家族についてお答え下さい。
住み込みのお手伝いさん、親戚の人など同居している方がおりましたら、会員記入して下さい。

職業は、次の中から該当するものの記号を記入して下さい。
イ. 専門職 ロ. 管理職 ハ. 事務職 ニ. 販売職 ホ. 農林・漁業
ヘ. 運輸・送達業 ツ. 技術職(工具、文芸、製造業など)
チ. 保安職(自衛官、消防員、警備員など) リ. サービス業 ス. その他

対象家族から かたづけ	年齢	最近お預けした学校または 施設名(学)しひのり	職業(イ)ス	性別	主な育児に かたづく人
お父					
お母					
お兄(男)				男・女	
お姉(女)				男・女	
お兄(男)				男・女	
お姉(女)				男・女	
お兄(男)				男・女	
お姉(女)				男・女	
お兄(男)				男・女	
お姉(女)				男・女	

(2) あなたが5〜6歳の頃、あなたのお父さんは、どんな人でしたか。
1. 厳しかった 2. こむくで近づく人が多かった 3. 優しくかった
4. あなたに期待をかけていた 5. ゆかいな人であった 6. 頼もしかった
7. 過保護であった 8. 子どもの言うなりになってくれた 9. 放っておかれた
10. 育児放棄がない 11. その他 12. その他(お父さん)

(3) A. 子どものしつけの方針について、主に決定するのはどなたですか。
1. 父親 2. 母親 3. 父親が話し合い
4. 母親が話し合い 5. その他()
B. お父さんとしつけ時、父親として主にどの方法をとりますか。
1. 言葉で伝える 2. けびを与える 3. 言葉で注意する、言いかきせる
4. 言葉で叱る 5. 体罰を加える 6. 何らかの罰を与える
7. しつけは母親にまかせる 8. 何にもしない
9. その他()

(4) あなたは子どもにとって、どんなお父さんだと思えますか。
1. 明るく楽しい 2. 冷たい 3. 厳しい
4. やさしく安心できる、信頼できる 4. 何でもわがままがきく
5. 早く同居している家族 7. よき指導者 8. 口やかましい
9. 頼りない 10. 強い気分がこぼれる 11. その他()

(5) 父親の希望として、どんな子どもであってほしいと思えますか。
1. 親孝行、兄弟のよい子ども 2. 明るく活発な子ども
3. 創造力、行動力のある子ども 4. 礼儀正しい子ども
5. ほかの人から尊敬される子ども 6. 思いやりのある、やさしい子ども
7. 楽観的で、言うことをよくきく子ども 8. がんばり、勉強がよくできる子ども
9. 夢の追求がとやまらずな子ども
10. 何でも最後までやりとげようとする意欲の強い子ども
11. 何に考えたことはない 12. わからぬ
13. その他()

(6) A. 父親として、将来はどの程度の学校教育を受けさせたいと思えますか。
1. 中学校まで 2. 高校まで 3. 短大、高等まで
4. 大学まで 5. 大学以上
7. その他()
B. お父さん、上記の教育を受けさせたいと思ふ理由は何ですか。
1. 人間性を養成するため 2. 自主性を養うため
3. 将来の職業や生活のため 4. 子どもの才能を伸ばすため
5. 社会の一員となるため 6. 家庭の事情のため
7. 経験や知識をふやし、視野を広げるため
8. その他()

(7) あなたのお父さんがお亡くなりになった時、あなたはお父さんの死をどう受け止めたか。
1. ほとんど1人でした 2. ほかの人(祖父母など)と半々
3. ほかの人(祖父母など)が主で、少し手伝った
4. ほかの人(祖父母など)にまかして、ほとんど何もしなかった
5. そばにいなかったので(実家へ送られたり)何もできなかった
その他()

(8) お父さんがお亡くなりになった時、お父さんに何を話したか。
1. 自分が中心になっていた 2. 母親と半々話した
3. 母親を少し手伝った 4. ほとんど何もしなかった
5. その他()

(9) お父さんと心のつながりを感じるように、一緒に遊んだり、話したりして、お父さんの相手をしてあげたい。
1. 仕事が終わっている時は、大抵その時況、子どもの相手をする
2. 時々、相手をする
3. むっくに相手をしていない(その理由)
4. その他()

(10) A. お父さんの相手をする時、何かに加わりませんか。
1. 父親と子どもだけのことが多い
2. ほかの家族(母親など)も加わることが多い → その時、おそばをいついていく人は
イ. 父親
ロ. 母親
ハ. 子ども
ニ. その他()

3. 他人(お母さんなど)が加わることが多い
4. その他()
B. 子どもの相手をする時、どんな気持ちですか。
1. 楽しい 2. 煩れる 3. 必要なことだ
4. その他()

(11) A. 今まで、お父さんに反抗期(急に背を向くこと)がなかったか。
1. なかった 2. 母親に対してあった
3. 父親に対してあった
B. (お父さんに反抗期があった方のみ)お父さん(お母さん)に何を話したか。
1. 体罰を加えられたこと 2. 言葉で厳しくされたこと
3. 言葉で注意されたこと
4. 母親に話しかけて、何にもしなかった
5. 父親に、何にもせず見守り、放っておいた
6. どうしていいかわからなかった
7. その他()

(12) あなたは父親として、ご自分をどのように評価していますか。
1. 充分によくやった
2. 充分とは言えないが、よくやった
3. 不十分であった(その理由を理由)
4. 子どもとは、母親にまかせるので、何にもしなかった
5. 子どもは放っておけばいいので、何にもしなかった
6. わからぬ
7. その他()

(13) 父子関係について、何にお気付きの点がありましたら、何でもご自由に書き添えて下さい。

※ ご協力ありがとうございました。

ろうと考えられる項目ばかりで、父親の子ども観や育児の実践に、根本的な違いもたらず要因となっていないと思われた。

母親の職業の有無によって、結果に差が生じるであろうと予測される項目は、育児の実践面においてである。しかし今日の調査の結果、実践面で差があったのは、乳児期の世話だけで、母親が有職の場合、父親は乳児の世話をよくしているにもかかわらず、自己評価は不十分であると答えた者が多かった。母親の職業の有無によって、望む学歴、進学させたい理由、父親の自己像に、何故差が生じたのか不明である。母親の職業の有無は、父親の社会的背景と深く結びついていることが予想されるが、今後は、母親の職業の内容や時間、家庭内における位置づけなども考えあわせなければならないであろう。

以上、みてきたように、父親の育児に関する認識や実践に影響を及ぼすと考えられる因子、子どもの性別や出生順位、母親の職業の有無といった条件よりも、父親の年齢、学歴、職業など、父親の社会的背景による条件であることがわかった。

今後、前述の父親の権威と共に、父親の役割に対する父親の認識と実践についても調査を継続したい。

V 要 約

父親のあるべき姿、現実の父親像についての調査研究は、母親のそれに比べてまだ充分ではなく、明らかにされていない点が多い。

神奈川県下の2保育園、3幼稚園の協力を得て、アンケート形式により、幼児のいる父親の子ども観、育児参加の状況、それらに影響している要因について調査した。回収率は79.1%、675名の父親から回答を得た。

最多の回答によると、「望む子ども像は、健康で元気がよく、やさしく、意志が強いこと。進学は教養を高めるため、大学までか本人まかせ。子どもの反抗は父母に対してあった。子どもの相手は必要なことである。しつけの方針は父母の話あいによる。しつけの方法は言葉で注意する。反抗に対しても言葉でしかる。子ども生まれた時の母子の世話はあまりせず、乳児期の世話は少し手伝う程度。現在子どもの相手は時々する。父親として、よくやっているという自己評価。父親自身は優しく信頼できる存在であるが自分の父親は厳しかった」という結果であった。

現代の父親は、戦前の父親に比べると、子どもに対して親しみのある存在として、子どもに接近しており、権威をもって、子どもに「距離」をおいている父親は少なくなっているようであった。また、子どもには、社会性よりも、性格、能力を重んじる傾向がみられた。

調査結果を、子ども側の条件（性別、出生順位）と父親の社会的背景とによって比較検討したところ、後者による差の方が多くの項目にみられた。父親の年齢別では、望む子ども像、反抗期の有無、子どもの相手をする時の気持、しつけの方法、反抗への対処法の5項目に差があった。父親の学歴別では、望む子ども像、進学、子どもが生まれた時の母子の世話、父親自身の自己像、自分の父親の人柄の5項目に差があった。父親の職業別では、望む子ども像、進学、子どもの相手をする時の気持、しつけの方法、子どもが生まれた時の母子の世話、子どもの相手をする時ほかに加わるもの、父親としての自己評価の7項目に差があった。

以上の結果、父親が子どもに働きかけるとき、子ども側の条件よりも、父親の社会的背景の方が、子どもに与える影響は大きいということがわかった。

最後に、この調査に御協力いただいた、和泉保育園、二本松保育園、相模白ゆり幼稚園、めぐみ幼稚園、海老名みなみ幼稚園の関係各位に深く感謝致します。

文 献

- 1) M. ミード (田中寿美子他訳) 「男性と女性—移りゆく世界における両性の研究」東京創元社、1961
- 2) M. E. ラム編著 (久米稔他訳) 「父親の役割—乳幼児発達とのかかわり」家政教育社、1981
- 3) 桂広介他編「父親の役割」金子書房、1981
- 4) 平井信義他編著「父親の事典」ぎょうせい、1977
- 5) 風間大治『親子関係と家族教育の現代的状況(1)』NHK総合放送文化研究所「文研月報」Vol. 27, No. 2 p. 24~35, 1977
- 6) 伊藤友宣「親—母親、そして父親に問われるもの」朱鷺書房、1978
- 7) 中根千枝『父親の基礎と役割』NHK 70年代われらの世界、プロジェクト編「オヤジ—父なき社会の家族」ダイヤモンド社、1974
- 8) 詫摩武俊「父と子のあいだ」雷鳥社、1969

父親と子どもについてのアンケート

これは、お父さんとお子さんが、日頃どのように接しているかを知るためのものです。あなたのふだんの様子をお気軽にお知らせ下さい。なお、小学校へ入る前のお子さんを対象にして下さい。

昭和 年 月 日 記入

- (1) あなたのご家族についてお答え下さい。
- 住み込みの人、お手洗いさん、親戚の人など同居している方がありましたら、全員記入して下さい。
- * 職業は、次の中から該当するものの記号を記入して下さい。
- イ. 専門業 ロ. 管理職 ハ. 事務職 ニ. 販売業 ホ. 農林・漁業
 ヘ. 運輸・通信業 ト. 技能職(工具、大工、製造業など)
 チ. 保安業(警察官、消防員、警備員など) リ. サービス業 ヌ. その他
 ヲ. 無業

対象児からみ先続行	年令	最後に卒業した学校または現在通園(学)しているところ	* 職、業	性別	主に育児にあたる人(○印)
父					
母					
本人(対象児)				男・女	
				男・女	
				男・女	
				男・女	
				男・女	
				男・女	
				男・女	

- (2) あなたが5〜6歳の頃、あなたのお父さんは、どんな人でしたか。
1. 厳しかった
 2. こわくて近づけなかった
 3. 後しかった
 4. あなたに期待をかけていた
 5. ゆかいな人であった
 6. 頼もしかった
 7. 過保護であった
 8. 子どもの言うなりになってくれた
 9. 放っておかれた
 10. 特にな印象がない
 11. その他()
 12. その頃父なし

- (7) A. 子どものしつけの方針について、主に決定するのはどなたですか。
1. 父親
 2. 母親
 3. 父親の話し合い
 4. 特にな方針はない
 5. その他()
- B. お子さんをしつける時、父親として主にどのような方法をとりですか。
1. 言葉でほめる
 2. ほりびを与える
 3. 言葉で注意する、言いかせる
 4. 言葉で強くしかる
 5. 体罰を加える
 6. 何らかの罰を与える
 7. しつけは母親にまかせてある
 8. 特になもしない
 9. その他()

- (8) あなたは、子どもにとって、どんなお父さんだと思いますか。
1. 明るく楽しい
 2. 冷い
 3. 厳しい
 4. やさしく安心できる、信頼できる
 5. 何でもわがまがまがきく
 6. 早く同居している年長者
 7. よき指導者
 8. ロヤカましい
 9. 頼りない
 10. 暗い気分をさせる
 11. その他()

- (9) 父親の希望として、どんな子どもであってほしいと思いますか。3つくらいして下さい。
1. 健康で、元気なよい子ども
 2. 明るくほがらかな子ども
 3. 創造力、活動力のある子ども
 4. 礼儀正しい子ども
 5. ほかに人から信頼される子ども
 6. 思いやりのある、やさしい子ども
 7. 素直で、言うことをよくきく子ども
 8. かじとく、勉強のよくできる子ども
 9. 多くの友だちと仲よくできる子ども
 10. 何でも最後までやりとげようとする意志の強い子ども
 11. 特にな考えたことはない
 12. わからない
 13. その他()

- (10) A. 父親として、将来はどの程度の学校教育を受けさせたいと思えますか。
1. 中学まで
 2. 高校まで
 3. 短大、高等まで
 4. 大学まで
 5. 大学以上
 6. 本人にまかせる
 7. その他()
- B. お子さんに、上記の教育を受けさせたいと思理由は何ですか。
1. 人間性を豊かにするため
 2. 自主性を養うため
 3. 将来の職業や生活のため
 4. 子どもの才能を伸ばすため
 5. 社会の一員となるため
 6. 家庭の事情のため
 7. 経験や知識をふやし、視野を広げるため
 8. その他()

- (5) あなたのお子さんが生まれて、病院から退院したあと、あなたは母子の世話をしましたか。
1. ほとんど1人でした
 2. ほかに人(祖母など)と半々位
 3. ほかに人(祖母など)が主で、少し手伝う位
 4. ほかに人(祖母など)にまかせて、ほとんど何もしなかった
 5. そばにいなかった(実家へ退院などのため)何もできなかった
 6. その他()

- (4) お子さんがまだ赤ちゃんの頃、おむつをどりかえたり、ミルクを飲ませたり、あやしんだりなどの世話をしましたか。
1. 自分が中心になってした
 2. 母親と半々位にした
 3. 母親を少し手伝った
 4. ほとんどなにもしなかった
 5. その他()

- (5) お子さんとの心のつながりを保てるように、一緒に遊んだり、話したりして、お子さんの相手をしましたか。
1. 仕事を離れている時は、大部分の時間、子どもの相手をする
 2. 時々、相手をする
 3. めったに相手をしない(その理由)
 4. その他()

- (6) A. お子さんの相手をする時、ほかに誰か加わりますか。
1. 父親と子どもだけのことが多い
 2. ほかに家族(母親など)も加わることが多い → その時、おそびをひばって行く人は
 - イ. 父親
 - ロ. 母親
 - ヘ. 子ども
 - ニ. その他()
 3. 他人(上の子どもなど)が加わることが多い
 4. その他()

- B. 子どもの相手をする時、どんな気持ちですか。
1. 楽しい
 2. 疲れる
 3. 必要なことだ
 4. その他()

- (11) A. 今まで、お子さんに反抗期(急に背りことをきかなくなる)がありましたか。
1. なかった
 2. 母親に対してあった
 3. 父親に対してあった
 4. 父母共にに対してあった
- B. (お子さんに反抗期があった方のみ、お答えください) その時、あなたは父親としてどのように接しましたか。
1. 体罰を与えた
 2. 言葉で強くしなかった
 3. 言葉で注意した
 4. 母親にまかせて、特になしなかった
 5. 父母共、特になし見守り、放っておいた
 6. どうしてよいかわからなかった
 7. その他()

- (12) あなたは父親として、ご自分をどのように評価していますか。
1. 充分によくやっていた
 2. 充分とは言えないが、よくやっていた
 3. 不十分であった(その根拠と理由)
 4. 子どもからは、母親にまかせてあるの、特になしなかった
 5. 子どもは放っておけばよいので、特になしなかった
 6. わからない
 7. その他()

- (13) 父子関係について、特にお気付きの点がありましたら、何でもご自由にお書き下さい。

* ご協力ありがとうございます。

表4 父親の子ども観

※：重複回答あり
 ㊦：P<0.025
 ㊧：P<0.01
 ㊨：P<0.005

		全 体		父 親 の 年 齢						父 親 の 学 歴						父 親 の 職 業				子 ども の 出 生 順 位				子 ども の 性 別				母 親 の 職 業				
		N	%	20代		30代		40代		中卒		高卒		大卒		事務系		技能系		第1子	第2子以上			男		女		有		無		
				N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	
※望む子ども像	健康で元気のよい	568	84.1	49	80.3	449	84.9	68	82.9	56	80.0	269	86.5	186	82.3	257	82.6	268	85.1	316	85.9	211	82.1	273	85.3	254	83.3	91	79.8	280	84.8	
	性 格	明 朗	170	25.2	㊦	39.3	㊦	24.0	㊦	22.0	20	28.6	74	23.8	58	25.7	77	24.8	78	24.8	95	25.8	66	25.7	73	22.8	88	28.8	35	30.7	82	24.8
		やさしい	316	46.8	㊦	60.7	㊦	46.9	㊦	34.1	31	44.3	144	46.3	108	47.8	155	49.8	142	45.1	182	49.5	113	44.0	181	40.9	164	53.8	54	47.4	149	45.2
		素 直	54	8.0	6	9.8	40	7.6	8	9.8	7	10.0	28	9.0	14	6.2	23	7.4	27	8.6	15	4.1	23	8.9	16	5.0	32	10.5	10	8.8	25	7.6
	能 力	意志が強い	309	45.8	㊦	26.2	㊦	48.2	㊦	46.3	32	45.7	154	49.5	96	42.5	129	41.5	156	49.5	172	46.7	114	44.4	182	56.9	104	34.1	50	43.9	161	48.8
		創造力	124	18.4	8	13.1	100	18.9	15	18.3	4	5.7	40	12.9	68	30.1	75	24.1	98	30.1	77	20.9	38	14.8	70	21.9	45	14.8	15	13.2	69	20.9
		かしこい	15	2.2	3	4.9	8	1.5	4	4.9	3	4.3	3	1.0	9	4.0	8	2.6	5	1.6	10	2.7	3	1.2	9	2.8	4	1.3	4	3.5	9	2.7
	社 会 性	礼儀正しい	110	16.3	㊦	13.1	㊦	16.1	㊦	20.7	12	17.1	60	19.3	29	12.8	49	15.8	55	17.5	60	16.3	44	17.1	46	14.4	58	19.0	19	16.7	46	13.9
		信頼される	66	9.8	6	9.8	52	9.8	8	9.8	5	7.1	30	9.6	26	11.5	30	9.6	34	10.8	31	8.4	31	12.1	35	10.9	27	8.8	13	11.4	41	12.4
		友人と仲のよい	201	29.8	18	29.5	159	30.1	24	29.3	22	31.4	100	32.2	61	27.0	86	27.7	99	31.4	101	27.4	78	30.4	92	28.8	87	28.5	41	36.0	87	26.4
その 他	11	16.3	1	1.6	7	1.3	3	3.7	0	0	5	1.6	4	1.8	6	1.9	5	1.6	3	0.8	8	3.1	6	1.9	5	1.6	1	0.9	8	2.4		
望む学歴	中学校まで	1	0.1	0	0	1	0.2	0	0	0	0	1	0.3	0	0	0	0	0	0	1	0.3	0	0	1	0.3	0	0	0	0	0	0	0
	高等学校まで	46	6.8	5	8.2	37	7.0	4	4.9	11	15.7	25	8.0	9	11.3	㊦	1.9	㊦	11.4	25	6.8	18	7.0	15	4.7	28	9.2	㊦	9.6	㊦	5.8	
	大学まで	329	48.7	27	44.3	254	48.0	47	57.3	23	32.9	150	48.2	130	57.5	㊦	59.8	㊦	37.5	172	46.7	132	51.4	156	48.8	148	48.5	㊦	41.2	㊦	54.2	
	本人にまかせる	281	41.6	26	42.6	226	42.7	27	32.9	34	48.6	126	40.5	91	40.3	㊦	36.0	㊦	49.8	166	45.1	101	39.3	148	46.3	129	42.3	㊦	47.4	㊦	40.0	
	その 他	18	2.7	3	4.9	11	2.1	4	4.9	2	2.9	9	2.9	7	3.1	6	1.9	4	1.3	4	1.1	6	2.3	0	0	0	0	1	0.9	0	0	
※進学させたい理由	教 養	人間性を豊かにする	184	27.3	19	31.1	146	27.6	19	23.1	7	10.0	㊦	32.8	80	35.4	㊦	35.0	㊦	23.5	101	27.4	66	25.7	80	25.0	87	28.5	㊦	19.3	㊦	30.6
		視野を広げる	191	28.3	18	29.5	147	27.8	26	31.7	19	27.1	96	30.9	64	28.3	㊦	27.7	㊦	32.4	113	30.7	65	25.3	92	28.8	86	28.2	31	27.2	87	26.4
	実 利	将来の職業のため	68	10.1	4	6.6	53	10.0	9	11.0	9	12.9	35	11.3	17	7.5	㊦	9.6	㊦	11.4	34	9.2	27	10.5	㊦	11.9	㊦	7.5	13	11.4	33	10.0
		社会の一員となるため	60	8.9	6	9.8	46	8.7	8	9.8	11	15.7	27	8.7	10	4.4	㊦	7.1	㊦	11.7	29	7.9	26	10.1	㊦	5.6	㊦	12.1	㊦	9.6	㊦	10.6
	自 立	自主性を養う	112	16.6	10	16.4	89	16.8	13	15.9	10	14.3	58	18.6	36	15.9	㊦	15.8	㊦	19.4	62	16.8	43	16.7	48	15.0	57	18.7	17	14.9	53	16.1
才能を伸ばす		47	7.0	3	4.9	37	7.0	6	7.3	3	4.3	24	7.7	17	7.5	㊦	6.8	㊦	8.6	26	7.1	20	7.8	㊦	9.7	㊦	4.9	5	4.4	26	7.9	
その 他	71	10.5	8	13.1	53	10.0	9	11.0	11	15.7	45	14.5	24	10.6	㊦	9.6	㊦	12.1	38	10.3	28	10.9	39	12.2	27	8.9	21	18.4	22	6.7		
反抗期の有無	なし	245	36.3	㊦	27.9	㊦	35.7	㊦	46.3	22	31.4	116	37.3	85	37.6	118	37.9	112	35.6	112	30.4	116	45.1	121	37.8	107	35.1	45	39.5	128	38.8	
	父母に対してあり	277	41.0	㊦	44.3	㊦	42.3	㊦	29.3	31	44.3	125	40.2	92	40.7	128	41.2	126	40.0	178	47.0	79	30.7	123	38.4	129	42.3	47	41.2	130	39.4	
	父親に対してあり	14	2.1	0	0	11	2.1	3	3.7	1	1.4	6	1.9	6	2.7	6	1.9	7	2.2	8	0.8	10	3.9	5	1.6	8	2.6	1	0.9	11	3.3	
	母親に対してあり	129	19.1	16	26.2	99	18.7	14	17.1	15	21.4	61	19.6	40	17.7	56	18.0	64	20.3	75	20.4	48	18.7	68	21.3	55	18.0	18	15.8	60	18.2	
	その 他	10	1.5	1	1.6	6	1.3	3	3.7	1	1.4	3	1.0	3	1.3	3	1.0	6	1.9	5	1.4	4	1.6	3	0.9	6	2.0	3	2.6	1	0.3	
※相手とする時の気持	楽しい	259	38.4	㊦	27.9	㊦	38.6	㊦	46.3	24	34.3	110	35.4	106	46.9	㊦	45.0	㊦	33.3	131	35.6	109	42.4	124	38.8	116	38.0	43	37.7	128	38.8	
	疲れる	133	19.7	11	18.0	106	20.0	14	17.1	18	25.8	57	18.3	46	20.4	㊦	16.4	㊦	22.2	85	23.1	40	15.6	58	18.1	67	22.0	20	17.5	68	20.6	
	必要なことだ	327	48.4	㊦	59.0	㊦	48.0	㊦	39.0	33	47.1	165	53.1	92	40.7	145	46.6	156	49.5	179	48.6	122	47.5	163	50.9	138	45.2	61	53.5	155	47.0	
	その 他	18	2.7	1	1.6	10	1.9	7	8.5	1	1.4	4	1.3	11	4.9	11	3.5	7	2.2	13	3.5	5	1.9	9	2.8	9	3.0	1	0.9	13	3.9	
計	675	—	61	—	529	—	82	—	70	—	311	—	226	—	311	—	315	—	368	—	257	—	320	—	305	—	114	—	330	—		

産他：父親の育児に関する認識と実践について

表6 自分の父親の人柄、父親の自己像及び自己評価

注 ※：重複回答あり
 ⑬：P<0.01
 ⑭：P<0.025
 ⑮：P<0.005

	全体		父親の年齢						父親の学歴						父親の職業				子どもの出生順位				子どもの性別				母親の職業				
	N	%	20代		30代		40代		中卒		高卒		大卒		事務系		技能系		第1子	第2子以上	男児		女児		有		無				
			N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%			
※ 自分 の父親 の人柄	厳しかった	218	32.3	19	31.1	160	30.2	29	35.4	15	21.4	102	32.0	76	33.6	110	35.4	90	28.6	120	32.6	82	31.9	103	32.2	99	32.5	34	29.8	93	28.2
	優しくかった	129	19.1	15	24.6	102	19.3	12	14.6	8	11.4	63	20.3	41	18.1	57	18.3	59	18.7	70	19.0	50	19.5	51	15.9	69	22.6	23	20.0	61	18.5
	頼もしかった	62	9.2	3	4.9	54	10.2	5	6.1	3	4.3	28	9.0	27	11.9	30	9.6	25	7.9	32	8.7	26	10.1	31	9.7	26	8.5	9	7.9	29	8.9
	自分に期待をかけていた	33	4.9	5	8.2	22	4.2	6	7.3	1	1.4	15	4.8	16	7.1	14	4.5	13	4.1	15	4.1	16	6.2	10	3.1	21	6.9	8	7.0	15	4.5
	こわくて近づけなかった	54	8.0	7	11.5	42	7.9	4	4.9	10	14.3	24	7.7	13	5.8	19	6.1	29	9.2	31	8.4	17	6.6	22	6.9	26	8.5	7	6.1	27	8.1
	放っておかれた	71	10.5	6	9.8	56	10.6	9	11.0	17	24.3	30	9.6	22	9.7	33	10.6	34	10.8	41	11.1	26	10.1	41	12.8	26	8.5	17	14.9	44	13.3
	ゆかいな人であった	19	2.8	1	1.6	14	2.6	4	4.9	1	1.4	9	2.9	6	2.7	5	1.6	11	3.5	9	2.4	9	3.5	10	3.1	8	2.6	4	3.5	10	3.0
	過保護であった	3	0.4	0	0	2	0.4	1	1.2	0	0	3	1.0	0	0	0	0	3	1.0	2	0.5	0	0	2	0.6	0	0	2	1.8	1	0.3
	子どものいうなりになった	5	0.7	1	1.6	3	0.6	1	1.2	0	0	4	1.3	1	0.4	2	0.4	2	0.6	3	0.8	1	0.4	2	0.6	2	0.7	3	2.6	1	0.3
	特に印象なし	122	18.1	14	23.0	91	17.2	16	19.5	11	15.7	57	18.3	40	17.7	55	17.7	61	19.4	72	19.6	41	16.0	59	18.4	54	17.7	25	21.9	68	20.6
その他	44	6.5	2	3.3	34	6.4	7	8.5	6	8.6	19	6.1	16	7.1	20	6.4	23	7.3	22	6.0	21	8.2	24	7.5	19	6.2	4	3.5	22	6.7	
※ 父親 の自己 像	厳しい	169	25.0	17	27.9	139	26.3	12	14.6	12	17.1	87	28.0	50	22.1	71	22.8	86	27.3	88	23.9	68	26.5	86	26.9	70	23.0	④⑩	35.1	⑦⑮	21.8
	優しく信頼できる	269	39.9	20	32.8	211	39.9	37	45.1	20	28.6	122	39.2	100	44.2	148	47.6	108	34.3	148	40.2	98	38.1	124	38.8	122	40.0	⑩⑮	28.1	⑬⑯	44.2
	よき指導者	38	5.6	5	8.2	29	5.5	4	4.9	2	2.9	18	5.8	17	7.5	19	6.1	15	4.8	22	6.0	14	5.4	23	7.2	13	4.3	⑨	7.9	⑬	3.9
	口やかましい	48	7.1	4	6.6	38	7.2	6	7.3	9	12.9	24	7.7	12	5.3	16	5.1	25	7.9	23	6.3	22	8.6	32	10.0	13	4.3	⑪	9.6	⑳	6.7
	冷たい	10	1.5	0	0	10	1.9	0	0	1	1.4	4	1.3	3	1.3	2	0.6	6	1.9	6	1.6	3	1.2	3	0.9	6	2.0	2	1.8	6	1.8
	暗い気分させる	1	0.1	0	0	1	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3	0	0	1	0.3	0	0	1	0.3	0	0	1	0.9	0	0
	単なる同居者	10	1.5	0	0	7	1.3	3	3.7	0	0	3	1.0	5	2.2	7	2.3	3	1.0	7	1.9	3	1.2	4	1.3	6	2.0	2	1.8	5	1.5
	明るく楽しい	129	19.1	12	19.7	98	18.5	18	22.0	19	27.1	50	16.1	23	10.2	58	18.6	59	18.7	71	19.3	49	19.1	57	17.8	63	20.7	18	15.8	66	20.0
	何でもわかままがきく	50	7.4	8	13.1	37	7.0	5	6.1	10	14.3	21	6.8	14	6.2	21	6.8	26	8.3	24	6.5	22	8.6	22	6.9	24	7.9	10	8.8	23	7.0
	頼りない	4	0.6	0	0	4	0.8	0	0	0	0	2	0.6	2	0.9	1	0.3	3	1.0	4	1.1	0	0	2	0.6	2	0.7	1	0.9	3	0.9
その他	40	5.9	5	8.2	33	6.2	1	1.2	5	7.1	16	5.1	12	5.3	16	5.1	21	6.7	22	6.0	16	6.2	17	5.3	21	6.9	8	7.0	18	5.5	
父親としての自己評価	充分よくやっている	27	4.0	3	4.9	20	3.8	4	4.9	1	1.4	17	5.5	9	4.0	⑩	5.1	⑨	2.9	18	4.9	7	2.7	14	4.3	11	3.6	5	4.4	⑪	3.3
	充分とは言えないが、よくやっている	421	62.4	36	59.0	333	62.9	50	61.0	42	60.0	199	64.0	137	60.6	188	60.5	205	65.1	230	62.5	162	63.0	202	63.1	190	62.3	61	53.5	206	63.0
	不十分であった	58	8.6	7	11.5	42	8.9	8	9.8	3	4.3	28	9.0	22	9.7	⑮	11.3	⑩	4.8	32	8.7	22	8.6	28	8.8	26	8.5	15	13.2	26	7.9
	子どもは放っておけばよい	23	3.4	1	1.6	20	3.8	2	2.4	6	8.5	7	2.3	7	3.1	12	3.9	10	3.2	11	3.0	6	2.3	11	3.4	7	2.3	8	7.0	9	2.7
	子どものことは母親まかせ	99	14.7	7	11.5	79	14.9	13	15.9	12	17.1	42	13.5	34	15.0	40	12.9	54	17.1	49	13.3	42	16.3	41	12.8	51	16.7	15	13.2	53	16.1
	わからない	29	4.3	3	4.9	23	4.3	3	3.7	3	4.3	13	4.2	11	4.9	14	4.5	15	4.8	18	4.9	11	4.3	17	5.3	10	3.3	6	5.3	17	5.2
	その他	18	2.7	4	6.6	12	2.3	2	2.4	3	4.3	5	1.6	6	2.7	6	1.9	7	2.2	10	2.7	7	2.7	7	2.2	10	3.3	4	3.5	6	1.8
計	675	—	61	—	529	—	82	—	70	—	311	—	226	—	311	—	315	—	368	—	257	—	320	—	305	—	114	—	330	—	

注：父親の育児に関する認識と実践について

COMPUTER: 81
PROGRAM: 81
TABLE: 81
UNIT: 81

THE UNIVERSITY OF CHICAGO LIBRARY

NO.	NAME	ADDRESS	CITY	STATE	ZIP
1	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
2	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
3	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
4	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
5	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
6	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
7	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
8	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
9	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
10	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
11	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
12	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
13	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
14	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
15	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
16	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
17	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
18	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
19	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
20	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
21	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
22	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
23	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
24	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
25	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
26	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
27	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
28	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
29	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
30	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
31	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
32	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
33	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
34	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
35	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
36	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
37	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
38	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
39	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
40	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
41	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
42	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
43	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
44	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
45	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
46	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
47	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
48	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
49	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106
50	ALBERT A. ALLEN	1000 S. MICHIGAN	ANN ARBOR	MI	48106